

3 夏季研修③

いわき市久之浜地区

今回私たちは、久之浜公民館、久之浜漁港、浜風商店街を訪れた。福島県いわき市の最北端に位置する久之浜地区は、雪が降ることも、気温が30度を超えることも少ないという過ごしやすい場所である。久之浜地区には、震災前6000名の住民がいたが、現在は4200名に留まっている。平成23年4月11日午後7時にいわき市が発表した「緊急時避難準備区域」の対象とならなかったことにより、久之浜地区が安全だという知らせをうけ、徐々に帰町が始まった。しかし、約70名の人々がまだ仮設住宅から久之浜に帰ってきていない。

久之浜公民館

所在地	福島県いわき市久之浜町久之浜字中町32番地
設計者	永山建築設計事務所・小堀哲夫建築設計事務所
構造形式	鉄筋コンクリート造 地上3階
延床面積	2207㎡
竣工	2016年3月

■概要

1階全てがガラス張り
でスケルトン構造である。これにより津波が来た際、ガラスが割れて、建物の被害を軽減することができ、扉に工夫がなされているた



め避難がしやすくなっている。津波避難ビルとして機能はもちろん、デザインも優れているので、久之浜の復興の象徴となっている。

■設備

- ・久之浜住民の1日分の食料、2日分の水が備えられている
- ・屋上に太陽光発電とディーゼル発電機
- ・室内のエレベーターは26人乗り
- ・1階の所々に蹴破れる部分があり避難しやすい
- ・階段には「ゆっくり避難ルート」と「避難ルート」の表記があり、高齢者や子供たちも落ち着いて避難できる
- ・震災に関するパネル説明、展示スペースの設置



▲津波到達点の表示



▲「ゆっくり避難ルート」と「避難ルート」



▲スケルトン構造

久之浜漁港

久之浜は、漁業が盛んな町で、年間8億円の漁獲量を誇った。これには、ブランド魚も含まれており、久之浜の魚を基準に全国の魚の値段が決まるほどであった。また、久之浜からの出荷が遅れたりストップしたりすれば、日本の市場取引に大きな影響が出ていた。現在は、福島第一原発事故による影響が問題となり、水産物だけでなく福島県産の食品全般が風評被害を受けている。現在は試験操業を行い、水揚げした魚の放射線量測定などが行われているにもかかわらず、風評被害はいまだに在り、水揚げ量も事故前と比べると大きく下がってしまった。

しかし、復興が進んでいないわけではない。今年の10月16日、震災で中断していた「漁業祭り」が6年ぶりに開かれた。この祭りは2001年に始まり、震災前は2万人の人々

が訪れた。今回は、試験操業で捕れた魚や水産加工物を売るだけでなく、石川町の関係者による鍋料理や乗船体験が行われた。

語り部阿部さん

現在、久之浜地区には子供が100名程度しかいない。阿部さんの「子供なくて国滅ぶ」という言葉の通り、このままでは久之浜地区は衰退してしまうと思う。子供が少ない



原因は、親が久之浜の放射線量や被災状況を気にしているためだと考察する。しかし、放射線量は震災当時に比べ減少しており、徐々に復興も進んでいる。子供が久之浜地区に戻すためには、適切な情報の提供、公園等の施設を充実させることが必要だと感じた。

久之浜地区は、地震発生から津波が到達するまでに45分かかったという話を聞いた。この45分が避難する人々にとって十分な時間なのか、そうでないかを考えることが今後避難を想定する上で重要である。また、これまでの避難訓練の対象者は健康者が中心であつた。今後は車いすの人や寝たきりの人を対象とした避難訓練に取り組むことも必要だろう。災害についての啓発意識を高めていくこと、地震・津波を風化させないことの大切さを改めて感じた。

前述のとおり、阿部さんは、久之浜は漁業なしに復興はあり得ないと話されていた。復興の軸が決まり地元住民にそれが浸透することが、復興には欠かせないことである。

浜風商店街

震災後、中小機構の「仮施設設置整備事業」によっていわき市に作られた、最初のプレハブによる仮設商店街である。「地元で営業を再開したい」という店主と、「買い物をする場所がほしい」という住民の双方の声に後押しされ2011年9月3日にオープンした。現在、9店舗が営業しており、久之浜商工会もここを活動拠点にしている。震災前の店舗は津波で流失し、現在の場所から再建を目指している。場所が移っても、商店街の人々は親切で活気にあふれていた。

現在商店街は、小学校の敷地を一部を使って営業を行っている。今後はまちなかに移る計画が進められている。

商店街の中にある久之浜ふれあい情報館は、久之浜の歴史や、被災当時の写真、最新情報などを扱っており、久之浜の被害状況や復興に向けての取り組みが伺える。毎年3月11日に行われる「復興の花を咲かせようプロジェクト」という「献花の集い」で、商店街のオリジナル商品である「花のセット」を育ててもらい献花する。セットには二次元コードがついており、サイトにアクセスし登録すれば、復興ニューズレター「浜風通信」が送られてくる仕組みで、こうして被災地と遠く離れた場所を繋ぐことができる。

